

**HUMANE
INTERNATIONAL
NETWORK
(HINT)**

—————HINT News Letter No. 43 目次—————

- Page1: HINT 講演会・活動報告会のお知らせ
Page2~5: 2015HINT 講演会 世界に広がる感染症の現状(2)
Page5: アフリカ事業 ルワンダ難民救援と奨学生
Page6: アフリカの窓 変貌するアフリカ
Page7: 会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿、
事務局からのお願い
Page8: 事務局からのお知らせ

HINT 講演会・活動報告会
コンゴの子供たち
——映像と音楽の紹介

日時：7月10日（日）13時～15時
場所：カトリック松原教会 2階信徒ホール

東京都世田谷区松原2丁目28番5号 TEL. 03-3321-0941

講師 **オノレ・カブンディ**



カトリック松原教会助任・淳心会司祭
コンゴ民主共和国出身

アフリカのコンゴの子供たちの日常の姿を、
さまざまな映像や音楽を通してご説明いただきます。



HINT（（特活）ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク）は、1994年に発生したアフリカのルワンダ虐殺時の難民支援のために創設された東京都認証NPO（非営利活動）法人です。現在はイエス・キリストの教えにしたがい、開発途上国における教育や保健医療、農村開発などを通じて、国境を超えた支援活動を続けています。息の長い継続が必要な奨学金運営では20年以上の実績があり、教会や他団体との連携を活かしつつ、貧困状態が続く地域で多くの人材と希望を育てています。

2015HINT 講演会

エボラウイルスやジカ熱、デング熱の猛威は記憶に新しいところですが、国際社会のターゲットであるマラリアの撲滅運動「ロールバックマラリア」が継続して行われています。グローバル化が進む中で、感染を収束させるための方策とは何かを、日本を代表する熱帯病の専門家である狩野繁之氏からお話をうかがいました。今回は講演の採録の連載2回目です（2015年6月20日（土）、於・新宿区落合第一地域センター）。

世界に広がる感染症の現状(2)

狩野繁之



ツタンカーメンの謎

実は、ツタンカーメンは、今から3000年以上前に生きた人ですが、このミイラの骨髄を削ってきて、そこからDNAを採取して解析したら、DNAは頑丈で壊れないのですね、ツタンカーメンがマラリアに感染していたことがわかりました。今までツタンカーメンは頭を殴られて撲殺されたのではないかという話であったわけですが、マラリアが殺したというニュースになりました。

さらには、亡くなったご遺体をCTにかけて検査するオートプシーイメージング（死亡時画像診断）をツタンカーメンのミイラで行いましたところ、なんと、あちこちたくさん骨折していることが分かったのです。手も肩も、足に至っては開放骨折して骨が皮膚を貫いていました。ということは喧嘩か何かをして、殺されたのかと思われたのですが、実は日本の専門家がその骨折の様子を解析し、交通事故などで転んで骨折するのと同じであって、どう転んでどう骨折したかを明らかにしました。それによるとツタンカーメンは当時、おそらくチャリオットという馬車に似た戦車から転げ落ちて、手や足をついて骨折をしたということがわかりました。

鎌形赤血球症

さらにもう一つ、ツタンカーメン自身のDNAの検査をしたら、常染色体性劣性遺伝の鎌形赤血球症という病気であったこともわかりました。鎌形赤血球は、赤血球の一部または大

半が鎌形になってしまっていて、非常に酸素を運ぶ能力が低い脆弱な赤血球です。マラリア原虫は赤血球に寄生するので、鎌形赤血球に入ると赤血球が壊れてしまって増殖することができません。逆にいうと鎌形赤血球症の人はマラリアの感染に強いということになります。マラリアの流行度が高いところは、鎌形赤血球症の人が多くことがわかっており、どうやら人が長くアフリカに住みながら、マラリアに抵抗性がある鎌形赤血球症の人が選ばれて、彼らが生き残ったというのが定説になっています。

つまり、ツタンカーメンは王として権力を持っていましたが、実は貧血で少しふらふらしていたわけですね。そして亡くなる直前にはマラリアにも罹って余計にふらふらしていたため、戦車から転げ落ちて骨折が加わり、ついには死んでしまったということになります。即ち、貧血が三つ重なってしまった——遺伝的鎌形赤血球症による貧血、マラリアによる貧血、そして骨折による貧血。実は、フジテレビで西島秀俊氏をナレータにして「誰がツタンカーメンを殺したのか!？」という番組を作りました。このあたりの背景をドキュメンタリータッチに描きました。いずれにせよ、ツタンカーメンが世界中でマラリアの感染が確認された歴史上で一番古い人物です。

個人情報とDNA検査

余談ですが、このツタンカーメンの死因に関する論文が出たときに反論が出てきました。これはツタンカーメンの個人情報で、しかも鎌形赤血球症は個人の遺伝情報で、これを勝手に調べて、世の中に晒して良いのか？この論文の著者は、ツタンカーメンに研究内容を事前に説明し、同意を文書でもらったのか？という喧嘩を売ったような論文が出ました。すると、この著者が、誰もが認識している歴史上の人物だったら許されるのではないかと書くと、有名人なら良いというのであれば、マイケル・ジャクソンでも良いのか？という泥仕合のような議論が巻き起こりました。

確かに良くなかったかもしれませんが、なぜかという、ツタンカーメンだけでなく周りの親類のミイラも調べてしまったので、ツタンカーメンの血縁情報が少し間違っていたことがわかってきました。そんなことではいけないですね。神話の世界に入って科学を振り回すのは良くないことだと思います。

ヒポクラテスから平清盛まで

今から約2000年前の紀元前460年頃に、ヒポクラテスという有名な医師がいました。最初に医学的にマラリアの記載をしたドクターだといわれています。マラリアという病気は発熱してガタガタ震えて脾臓が腫れます。ヒポクラテスが脾臓を触診しているところの絵があり、極めて正確な記載が残っています。しかし彼は少し間違えました。マラリアという病名は、ラテン語やイタリア語でマルが悪いという意味で、アリアはエア、すなわち「悪い空気」です。「瘴気説」、すなわち森の奥に入って悪い空気を吸ったり、汚い水を飲んだりすると感染すると考えて、マラリアにかからないように注意しました。かなりいい線までいったといえます。実は、森の奥までいくとそこにいる蚊が刺して感染していたのですね。空気ではなかった。しかし、その後2000年近くもヨーロッパの世界で、この病気は「マラリア」と呼ばれて、空気感染で分からない病原体が感染し、高熱がでる病気であると考えられてきました。

さらにそこから1000年経った日本では、この病気を治すには拝まないとダメ、これは悪霊の祟りであると考えられていました。平清盛が亡くなるときのことが平家物語に書かれています。「比叡山からの水を満たした石の水槽に体を浸すと瞬時に湧き上がってお湯になった。箕の水を体にかけてら、水が焼けたように飛び散った」すなわち、平清盛は当時マラリアだったといわれています。清盛が閻魔様の前でたうちまわって、加持祈禱を行っている絵が残されています。1000年前の日本でもマラリアが流行していましたが、このときも病原体や感染経路がわかりませんでした。

マラリア原虫と感染経路の発見

1880年にようやくアルフォンス・ラヴェランというフランス人の医師が、アルジェリアの軍病院で、赤血球の中に核がある病原体を見つけて、これは細菌でもウイルスでもなく寄生虫の仲間の原虫であるという発表をし、その業績で1907年にノーベル賞をもらいました。

ところがまだ、どうやって感染するかわからなかったのですけれども、それが蚊によって感染することを見つけたのが、ロナルド・ロスというイギリスのロンドンスクールの先生です。蚊の唾液腺に集まっているマラリア

原虫が、吸血時に唾液とともに人に入って感染することを証明しました。この証明によって1902年に彼もノーベル賞をもらいました。

病原体と感染経路を知ることは非常に大切です。これら2つのノーベル賞の研究成果によって、マラリアは原虫が感染したハマダラカに刺されなければ良いのだということがわかったのです。

ハマダラカ

羽に斑がある蚊でハマダラカです。実は日本にまだいます。本州には、シナハマダラカというのが青森あたりまで見つかっています。沖縄の方に行くとまだまだたくさんコガタハマダラカがいます。後ろ足を高くあげて上のほうからぎゅっと刺す。しかしあまり痛くなく、痒くありません。むしろヤブ蚊のほうが痒い。刺した途端に皮膚の下の毛細血管を探り当てて、そこにさっと吻を突っ込む。聖母病院の看護師さん並みに注射が上手です。ぱっと針を入れて1秒2秒で吸い始めるので本当にすごい。

このハマダラカ、アフリカの流行地に行くと、壁にとまっている蚊の足がひゅんと上がっていたら、皆さんは必死になってこれを殺さなければなりません（笑）。ぺったりと足が6本で平らにとまっていれば、シマカとかヤブカの類で、それらはマラリアをうつしません。



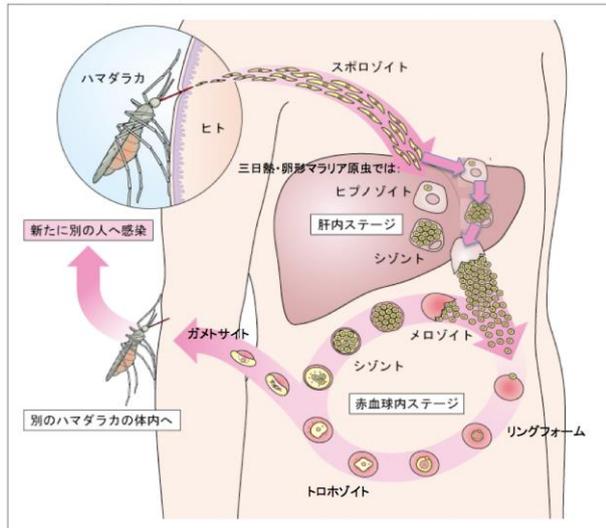
吸血するハマダラカ

マラリア原虫の生活史

マラリア原虫の生活史 (Life cycle) を説明します。医学部や臨床検査技師の学校に行くと、これを覚えなさいといけません。しかし、試験の前に一晩だけ憶えて、試験が終わると次の日には忘れていたわけですね（笑）。

蚊が人間を刺すと、実は最初、原虫は肝臓の中に入り分裂増殖します。一匹が数千匹までになって、それがはじめて、初めて赤血球

の中に入って、赤血球の中で2個、4個、8個と16個と2つずつ分裂していったら16～32個くらいになると、また赤血球を割ってはじめて、この1個1個がまた新しい赤血球に入ります。このように赤血球の中でマラリア原虫がどんどん増えて、その赤血球がはじけた瞬間に熱が出るのです。



マラリア原虫の生活史

熱帯熱マラリアは悪性マラリアとも言って、人が死にます。人が死ぬと寄生虫も一緒に死んでしまうので、これはヤバいと、マラリア原虫も早く蚊の方に逃げなくてはならないということになり、オスとメスの形に分かれます。マラリア原虫は人の体の中では無性生殖で増えますが、蚊に移る時にはオスとメスに分かれて、それらが偶然同時に蚊に吸われて、蚊のお腹の中で生殖を行うとライフサイクルを進めることができます。蚊と人との複雑な寄生生活を通して、3000年もの人類史上、人と蚊の間を行ったり来たりしています。

マラリアの種類

人のマラリアは4種類ありますが、1つは三日熱マラリア。なぜ三日熱かというと、48時間周期で熱が出るので、今日が第1病日だとすると、第2病日は無熱で、第3病日にまた熱が出る。四日熱マラリアというのもあって、これは熱の周期が72時間で、2日休んで第4病日にまた熱が出ることの繰り返しです。

熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、四日熱マラリア、卵形マラリアという4種類のマラリアがあって、熱帯熱マラリアが世界のマラリアの90%です。このうちの8割方がアフリカに分布しています。この熱帯熱マラリアだけが

人を殺します。残り3つのマラリアは、人を滅多に殺さないのです。

熱帯熱マラリアの危険性

エボラ出血熱の致死率は40%、MERSも中東で40%、韓国でも20%の致死率です。エボラなどの新興感染症が怖いといいますが、実は日本人の場合、熱帯熱マラリアに罹って放っておくと100%が死んでしまいます。我々の免疫力は追い付かず、感染して5日目ぐらいでもう死にはじめます。

アフリカの子供たちは、主に重症貧血で亡くなります。赤血球の輸血をしないと生きていけません。また脳マラリアという症状を合併して重症化する例では、亡くなった患者さんの頭の中を見ますと、毛細血管の中にぎっしりとマラリア原虫が詰まっている病理組織像が認められます。これで脳の血流が途絶えて亡くなってしまいます。

熱帯熱マラリアでは、早期診断、早期治療が何よりも大切です。

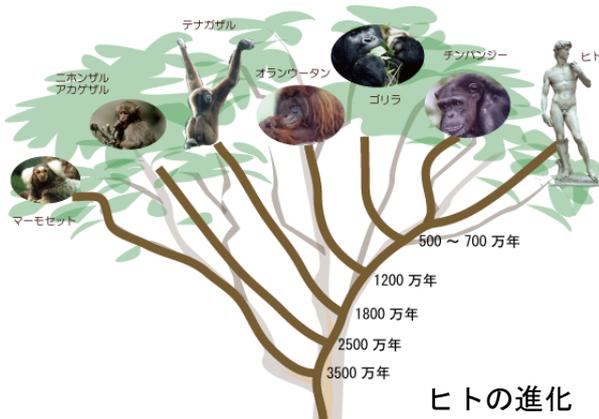
サルのマラリアがヒトへ

マラリアと人との関係の歴史はツタンカーメンから3000年と言いましたが、実はそんなものでは全然なかったことが遺伝学の研究でわかってきました。ヒトを含めた霊長類に寄生するマラリア原虫は20種類以上あって、それらの進化の系統樹を描くと、ヒトがサルから分かれて進化してきた5～600万年前、どうやら三日熱、四日熱、卵形マラリア原虫はヒトと一緒に付いて来た（または一緒に進化してきた）ことが分かりました。ところが、ヒトを殺す熱帯熱マラリア原虫は、先にゴリラに付いて行ったことがわかってきました。この悪性の熱帯熱マラリアは、アフリカのゴリラのマラリア原虫だったのですけれども、ゴリラが優しくしてくれないので（?）、途中からヒトを追いかけてきた！ということがわかったのです。

ヒトがサルだった頃から仲良く付き合ってきたマラリア原虫は、ホストを大事にします。ホスト・パラサイト・リレーションシップといいますが、ホストを生かさず殺さずというテクニックをパラサイトは知っているわけです。この3種のマラリア原虫は古女房のようなもので、これくらい金を取っても大丈夫、これくらいは吸い取っても旦那は死なないということは分かっています。一方、ゴリラから戻ってきた熱帯熱マラリア原虫は、最近付

アフリカ事業

き合いだした可愛いけれど性悪な彼女のようなもので、吸い尽くすだけ吸い尽くしてホストを殺してしまうことがあるのです。それぞれの進化の過程によって病原体の悪性度が決まるということがわかってきました。あと500万年もすれば、熱帯熱マラリア原虫もヒトと仲良くなって、殺さなくなる時が来るかもしれません。（その前に、ヒトが別の理由で絶滅しない様にしないと、折角追いかけてきた熱帯熱マラリア原虫が不憫です）



さてアカゲザルがアジア地域にたくさん住んでいます。この2500万年前にアケゲザルに定着したマラリア原虫 (*Plasmodium knowlesi*) が、今になって人の方にやってきたことがわかってきました。森林開発とか都市化という、人がサルの縄張りに入って行って、サルのマラリア原虫がアキシデンタルに人に感染して病気になるケースです。マレーシアで1500人、フィリピンで7人、カンボジアでも2人報告され、死亡するケースも散見されています。ごくごく最近付き合いだしたマラリア原虫なので、ヒトを殺してしまうのです。先日ついに日本にもこのサルマラリアの輸入例が上陸し、我々の病院で診断・治療することが出来ました。（続く）

【プロフィール】 狩野繁之(かのう しげゆき)

群馬大学医学部卒、同大学院博士課程（寄生虫学専攻）修了。同大学寄生虫学教室助教授を経て、1998年より現職（国立国際医療研究センター 研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長）。筑波大学基礎医学系教授、ラオス国立パストゥール研究所寄生虫研究室長、長崎大学大学院TMGH研究科客員教授、フィリピン大学公衆衛生学校客員教授、日本熱帯医学会理事長、日本カトリック医師会評議員、カトリック社会問題研究所幹事などを併任。趣味：書道、空手、マラソン。

1995年からはじまったHINTのアフリカ奨学金事業（コンゴ民主共和国／旧ザイル）のはじまりは、隣国ルワンダの大量虐殺に端を發します。カトリック東京国際センター（CTIC）の最初の国際司牧委員も務めた本会代表が、第2次ルワンダ難民救援チームの団長に選ばれ、難民が大量に流入していた現地に派遣されたことが契機になっています。HINT創立20周年を機に、奨学金事業のスタートを連載で綴ります。

ルワンダ難民救援と奨学生

進藤重光

1994年の秋、ルワンダ難民の救援のためにカリタスジャパン（日本カトリック司教協議会の社会福祉を担当する委員会）から派遣された5人の日本人がアフリカの大地に降り立ちました。団長とロジスティック担当、それにシスター2人を含む看護師3名で、1人のシスターを除いては全員が初めてのアフリカ大陸の訪問です。

日本の教会で準備した医薬品を運び、隣国ブルンジで車両を調達、難民キャンプでカリタスジャパニックリニックを開設し、治療を行うのがこのチームのミッションでした。一刻も早く応援に来るよという国際カリタス（本部ローマ）からの要請で、カリタスケニアのサポートもあり、直ぐにチャーター機を仕立て、小さなプロペラ機に医薬品を積み込んでザイル（当時）のブカブの空港に向かった我々の胸中にあったのは、生きて帰れるかという思いでした。

木の葉のように揺れる飛行機の中から見ると、滑走路らしきものが何もないように見えるブカブ空港に着いた我々を待っていたのは、税関職員を名乗る男でした。「あなたたちが飛行機の中から撮影をしていたのを見た。ここは重要な軍事施設だからカメラは没収する」というわけです。冗談ではない。管制塔はもとより、掘立小屋一つしかない「空港」で、教会のものを簡単に渡せるかと激論を交わし、それならと100ドルでようやく手打ちに。こうしてザイルに入国できた救援チームを待っていてくれたのはベルギーカリタスのスタッフ。荷物を運び、乗り込んだ大型のランドクルーザーの車内では、携帯無線機から甲高い声が始終鳴り響き、緊張感がいやがうえにも高まります。状況を尋ねると、食料の配布場所で分配が滞っており、難民の様子に危険な兆候があるとのことでした。（続く）

アフリカの窓

長年、大使として外交の現場で働いてこられた高倍宣義氏に伺う世界の現状。日本ユニセフ協会をはじめ、HINTでもご講演いただいております。今回は、北アフリカで巻き起こった「アラブの春」のその後についての解説です。

変貌するアフリカ

高倍宣義



1. アラブの春

2011年、北アフリカで絶対的な安定を享受していた長期独裁政権と体制が次々に倒れました。チュニジアのベン・アリ大統領とエジプトのムバラク大統領は民衆運動により、また、リビアのカダ

フィ大佐は民衆運動から内戦になり、多国籍軍の空爆と反政府軍により倒されました。これが「アラブの春」と呼ばれる冷戦後の地政学的変動です。

「春」ですから、言論や政治的自由がなく、軍・警察の監視・弾圧から解放され、自由と民主的変革が期待されました。3カ国はいずれも産油・天然ガス生産国ですが、豊かなのは権力者の周辺のみで、多くの若者は就職できず、希望がなく、不満でした。革命は、若い学卒の物売り青年が警察官の暴力で死亡したことで、民衆の怒りに火がつけました。

2. 中東・ヨーロッパへの伝播

アラブの春の嵐は中東の中心部に波及し、イエメンを混沌とさせ、シリアは内戦に陥り、カリフ国を目指す「イスラム国」ISが宣言されました。危機感を抱いたアメリカが、有志連合を結成し対IS戦争をしています。また、シリアのアサド政権を支援する形でロシアも空爆に参加し、事態は一層複雑になっています。戦禍を逃れ100万人を超える難民がEUに流入し、フランスやベルギーでは大規模なテロ事件が起き、問題はアフリカ、中東、ヨーロッパにまたがるようになりました。

3. イスラムの蜂起

サヘル地域から北のアフリカはイスラム教圏です。アラブの春の前、エジプトやチュニジアの政権はいずれも世俗主義を謳っていました。冷戦の終りに、アフリカも社会主義・一党独裁制から多党制に移行します。チュニジアやエジプトも民主化しますが、共産党や

宗教政党は認められず、実質的な一党独裁が続きます。リビアはイスラム社会主義と人民の直接民主制という特殊な制度によりカダフィが国家を統一している独裁国家でした。

アラブの春で、新しい国作りが始まると、世俗的で自由なグループのほかに、それまで禁止されていたイスラム政党が結成され、政治の表舞台に出てきました。エジプトではムスリム同胞団をバックにしたモルシ政権、チュニジアではアンナハダが主導する政権が誕生しました。国民は「春」の方向が狂ってきたので困惑しました。リビアは革命後、主義主張の違う民族が争い、安定するに至りません。

その後、エジプトではナセル革命以来、国家の屋台骨と自負してきた軍が、クーデターでモルシ政権を倒し、軍人のエルシーシが政権に復帰。チュニジアではアンナハダが第1党の座を譲るなど、イスラムの過激運動には警戒感が出ています。

4. リビアの解体とサブサハラへの衝撃

リビアで体制が崩壊すると、旧体制を支えていた傭兵と武器が近隣諸国に拡散し、地元イスラム過激組織と結びついてテロ活動を始めました。マリ北部でイスラム国家樹立が宣言され、仏軍と国連軍が介入しました。アルジェリア東部にあるガス田開発施設がテロに襲われ外国人の犠牲者が多数出ました。テロ活動はサヘル地域全域で起きるようになりました。女学生200人を拉致したボコ・ハラムが誕生したナイジェリア、内戦が続くソマリアとその周辺地域は不安定です。最近イスラム過激派組織は、相互に連携・拡大し、ISかアルカイダかのいずれかに忠誠を誓う系列化が進んでいます。

5. 新しいアイデンティティ探し

アラブの春から5年経ち、サブサハラでは、コートジボアール、マリ、ブルキナファソでクーデターなどにより政権交代がありました。イスラム教の影響はだんだん強くなっています。聖戦、テロ、シャリア法の適用、カリフ制国家などどこまで受容されるのでしょうか。アフリカもヨーロッパもイスラム教とどう向き合うか、大きな課題になっています。

【プロフィール】高倍宣義(たかべ のぶよし) 兵庫県出身、早稲田大学文学部卒。外務省入省後、南欧の他、モロッコ、チュニジア、コートジボアール、アルジェリアに勤務。邦人援護官、駐中央アフリカ大使、駐コンゴ民主共和国大使を歴任。

会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿
(2015. 11. 1-2016. 4. 30・順不同・敬称略)

カトリック松原教会	上村 武夫
高橋 章	村井厚子
桐山 泰柁	さいとう みずほ
渡辺 潤子	三橋 重一・理江子
石田 達也・倫子	禹 満
末吉 孝幸	加藤 順子
酒井 匠	神山 和美
東矢 高明	國府 俊明
長野 圭子	古城 かほる
谷口 義武	武井 秀彦
窪田 愛子	武井 弥生
森川 浩一郎	中本 裕之
築木 純夫	島田 恒
進藤 重光	山田 篤
春日井 明	高澤 佳代乃
池田 ゆう子	秋田 妙子
オリビエ シェガレ	碓井 徹
野坂 俊弥	安藤 秀樹
四條 淳也	小林 貞
岸田 万紀子	藤枝 伊都子
佐賀 邦夫	藤井 由雄
匿名の皆様	

ご支援・ご協力ありがとうございました。

★左記期間内に会費納入やご寄付をされている方で、名簿に載っていない方は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

★HINT は皆さまの会費で運営されています。年会費 5,000 円で、ベトナムでは約 500 人分の給食を提供できます。コンゴで中高生約 2 人分の 1 年間の学費です。

★封筒ラベルの一番下にある日付が、貴方の最終振込み日です。

★郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は郵便局から事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書で分かりやすくご記入いただきますとたいへん助かります。

HINT 事務局からのお願い

会費振込のお願い

皆さまの会費やご寄付が命綱です。お振り込みは同封の振込用紙を使用していただくか、下記口座へお振込みくださいますようお願いいたします(賛助会員:1口5,000円から・学生会員:1口2,000円から。ご寄付の場合はご随意にお願いいたします)。

■郵便振替:00120-1-596327

口座名義:特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行:

記号 10010 番号 26990711

(他銀行から振り込む場合 店名:008

種目:普通 番号:26990711)

口座名義:特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

■三井住友銀行:新宿支店

普通預金:3390001

口座名義:特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

● 2016 年度の役員・ボランティアを募集します

2016 年度の HINT 役員とボランティアを募集しています。非営利活動を支えるのは、皆さまからの大切な会費収入と同時に、日々の小さな事務作業の積み重ねです。役員は総会で選任され、定期的な理事会に出席し、HINT の実務的な業務をしていただきます。

印刷作業や荷物運び、翻訳などのテンポラリーなボランティアの仕事もあります。登録ボランティアとして、メールアドレスをご登録いただき、ご都合のつく時に、実務的な作業に随時ご協力いただければ幸いです。皆さまの積極的なお申し出をお待ちしています。

ご連絡・お問い合わせ先:

HINT 事務局 E-mail: hint_info@epopee.co.jp

HINT 事務局からのお知らせ

《総会のお知らせ》

日時：2016年6月25日(土) 18:30~19:30
場所：新宿区立戸塚地域センター5F会議室3
東京都新宿区高田馬場2-18-1 TEL:3209-8001
JR・西武新宿線高田馬場駅下車 徒歩1分
2016年度総会及び理事会を開催いたします。
議題：2015年度活動報告、2015年度決算、2016年度役員改選、2016年度活動計画、2016年度予算計画等
どなたでもご参加いただけます。HINTの活動について、ご関心のある方は是非おいで下さい。事前のご連絡は不要です。

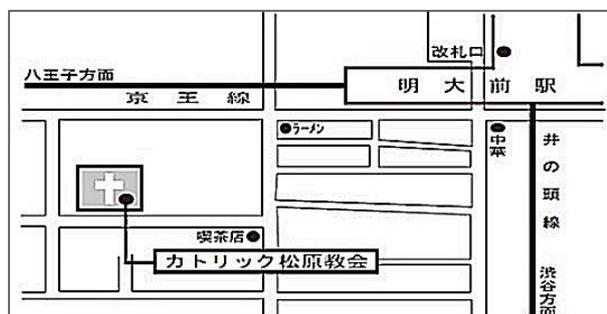
《今後の活動予定》

● 講演会・活動報告会を開催します オノレ・カブندی神父による

『コンゴの子供たち

——映像と音楽の紹介』

一昨年の開催で大好評だったコンゴ民主共和国出身のオノレ神父の講演会を、今年も松原教会で開催いたします。今回は現地の子供たちの日常風景を通し、音楽や映像をふんだんに使って現地の希望と夢をお伝えします。HINTの子供たちの姿もご紹介いたします。
日時：2016年7月10日(日) 13:00~15:00
場所：カトリック松原教会 信徒会館2階
会費：無料(事前のお申し込みは不要です)



(松原教会地図) 京王線明大前駅徒歩約5分

● 「赤羽教会チャリティーコンサート」に参加します

日時：2016年8月27日(土) 開演 14:00
場所：カトリック赤羽教会 信徒会館2階
JR 赤羽駅東口徒歩3分

出演者：ハーラウ・フラ・ナネア(フラダンス)、なまけぐま(デュエット)、KIKI&CHOUB(ゴスペル)、早稲田大学ニューオリンズジャズクラブ(ジャズバンド)、山路唯(ゴスペル)、渡辺克也・中村由利子(オーボエとピアノ)
入場料：前売り1,500円、当日2,000円
アジア・アフリカの子供たちと大震災復興支援のためのチャリティーコンサート。フラダンス、ゴスペル、ジャズと、どなたでもお気軽に楽しめる催しです。HINTはボランティアの方々と共に支援先の雑貨を紹介し、PR活動をします。

● 「第5回オープン・フォーラムY」に協賛します

日時：2016年6月18日(土) 9:30~18:30
場所：オリンピック記念青少年センター
会費：1,000円(昼食費含む)

対象：高校生以上25歳まで先着順
講師：木山啓子(緊急支援NGO「ジェン」事務局長)、福井美穂(「難民を助ける会」職員、埼玉大学講師)、高瀬一使徒(児童養護施設「さんあい」施設長、鈴木洋一(Wake Up Japan代表、国際NGO Oxfam Japan 青少年担当)
主催：ワイズメンズクラブ国際協会東日本区
オープン・フォーラムY(“YMCA”の略)は、国際協力、NGO活動等を学びたいという若者を対象に、現場の実務者と本音で語り合います。参加型演習では、さまざまな問題点を整理し、行動へのヒントをつかむための場となっています。今回は特に「人道支援」「貧困」「現場」をキーワードにプログラムを進めます。詳細についてはメール(浅羽)にて：youth_ys@gmail.com

特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク(HINT)事務局

〒164-0002 東京都中野区上高田3-24-7 平兵衛内

電話&FAX:03-6279-1080

e-mail: hint_info@epopee.co.jp

ホームページ: <http://www.epopee.co.jp/hint>